

阿蘇の概要

阿蘇は九州のほぼ中央にあります。阿蘇火山を中心に、世界有数の大きさをもつカルデラと、それをとりまく広大な外輪山をふくむ地域一帯は、豊かな自然に恵まれ、阿蘇くじゅう国立公園（阿蘇地域）となっています。



- 行政：1市3町3村（阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、西原村、南阿蘇村）
- 面積：約 1,080 km²
- 人口：約 6万8千人（平成 22 年）
- 気候：標高が 400 m をこす山地型の気候で、やや冷りょうで雨が多い
- 年間降水量：ほぼ全域が 2,500 mm を超える
- 主な産業：米、野菜、畜産を主体とした農業、林業、観光業
- 主な農産物：肉用牛、米、豚、トマト、ダイコン、キャベツなど
- 牧野組合数：約 160 組合（平成 23 年）
- 牛のいる農家の戸数：約 900 戸（平成 23 年）
- 観光で阿蘇を訪れる人の数：1 年間に約 1,600 万人（平成 26 年）

■主な観光案内施設・体験学習施設

- | | |
|--|------------------|
| ○阿蘇草原保全活動センター 草原情報館 | TEL 0967-32-0100 |
| ○阿蘇草原保全活動センター 草原学習館 | TEL 0967-32-4193 |
| ○阿蘇市一の宮町インフォメーションセンター：阿蘇市一の宮町宮地（阿蘇神社前） | TEL 0967-22-8181 |
| ○阿蘇インフォメーションセンター：阿蘇市小里（はな阿蘇美敷地内） | TEL 0967-32-1960 |
| ○南阿蘇ビジターセンター、阿蘇野草園：高森町大字高森 3219 | TEL 0967-62-2111 |
| ○阿蘇火山博物館：阿蘇市赤水（草千里ヶ浜） | TEL 0967-34-2111 |
| ○国立阿蘇青少年交流の家：阿蘇市一の宮町宮地 6029-1 | TEL 0967-22-0811 |

■草原をフィールドにした観察会などを行う組織・団体

- | | |
|------------------------------------|------------------|
| ○環境省阿蘇自然環境事務所 | TEL 0967-34-0254 |
| ○阿蘇エコツーリズム協会（(公財) 阿蘇地域振興デザインセンター内） | TEL 0967-22-4801 |
| ○阿蘇ジオパークガイド協会（阿蘇ジオパーク推進室内） | TEL 0967-34-2089 |
| ○阿蘇地区パークボランティアの会（(一財) 自然公園財団阿蘇支部内） | TEL 0967-34-2171 |
| ○なみの高原やすらぎ交流館 | TEL 0967-23-0555 |

阿蘇の草原や体験学習のお問合せはこちら 阿蘇草原保全活動センター 草原学習館

〒869-2307 熊本県阿蘇市小里656 TEL:0967-32-4193 FAX:0967-32-0888
URL <http://aso-sougentcenter.jp>

発行：平成 18 年 3 月 改訂：平成 28 年 3 月
環境省 九州地方環境事務所 阿蘇自然環境事務所

監修：池辺伸一郎、大滝典雄、瀬井純雄、高橋佳也、湯浅陸雄

写真・イラスト協力：有馬宏幸、稲益親義、大滝典雄、梶原宏之、城戸美智子、小池康司、後藤秀徳、田上義明
阿蘇ジオパーク推進協議会、阿蘇世界文化遺産推進室、(一財) 自然公園財団、島根県立三瓶自然館

編集協力：株式会社メッツ研究所 デザイン：株式会社アートポスト (50 音順・敬称略)

*このパンフレットはHPからダウンロードできます。 <http://aso-sougentcenter.jp/grassland/>（阿蘇草原保全活動センターHP）

このパンフレットは再生紙を使用しています。



ASO いざ草原へ

阿蘇のものしりブック

目次

- どこまでも続く草の海・・・2
- 日本一の草原とカルデラ・・・4
- 草原は生きものたちの宝庫・・・6
- 草原の水の恵み・・・8
- こんなにすごい草原はどうやってできたの？・・・10
- 牛から見た草原・・・14
- 草原の危機ってどういうこと？・・・16
- 草原を守るために・・・18
- 阿蘇の草原マップ・・・20
- 行ってみよう！^{がい}・・・22
- 阿蘇の概要・・・24

どこまでも続く草の海

大地にぼっかりと空いた大きなくぼみ、
目の前に広がる日本一の草原。

この素晴らしい景色を、ただ眺めるだけではなく、
阿蘇について、草原について、学んでみよう。

通り過ぎるだけでは見えてこなかった、
生きた阿蘇、生きた草原が、き^{むか}っときみたちを迎えてくれます。

ようこそ阿蘇へ、
そして、草原へ。

このパンフレットは、阿蘇の草原に咲く花々、地域の人々と草原の関わり、そして今草原がむかえている危機などについて紹介しています。阿蘇に出かける前に草原について学ぶことで、より草原に興味がわくでしょう。みなさんが、修学旅行や体験学習などで阿蘇を訪れるとき、このパンフレットを片手に、ぜひ草原を歩いてみてください。そしていろいろな阿蘇を発見してください。



高いところからカルデラに広がる草原をながめてみよう

このような広大な草原を見たことがありますか？ 阿蘇の草原は、世界でも有数の大きさのカルデラとその周辺に広がる日本一の野草を主体とした草原です。面積は約2万2千ヘクタール(人工の牧草地を含む)で、天草諸島の上島や石垣島とほぼ同じく

らしいの広さがあります。

カルデラとは、スペイン語で「大なべ」のことで、中央部が大きく丸くくぼんだなべのような地形をいいます。周りの輪のようになった山が外輪山がいりんざんです。

カルデラの壁の高さは、高いところで450m近くもあるんだ。



カルデラの直径は約20km。その中に4万7千人の人が住んでいるんだよ。



カルデラってどんな地形？

阿蘇で火山活動が始まったのはおよそ27万年前。では、阿蘇のカルデラはどのようにしてできたんだろう？

約9万年前

数千年前



富士山一つ分の量の溶岩や火山灰を噴き出す大噴火が occurred。このときの火砕流は九州の半分をおおいつくすほどでした。



大量の溶岩をふき出したため地面が落ちこみ、大きなくぼ地ができました。くぼ地に雨水がたまって湖となり、中央部には新たな噴火によって山ができました。



外輪山の割れ目からカルデラ湖の水は外に流れ落ち、ほぼ現在の姿となりました。

阿蘇の草原は日本を代表する風景だよ

春先の野焼きの後、一面に咲きほこる黄色いスミシ、夏の風にとごまでも揺れる青草、のんびりと草を食べるあか牛。秋の牧歌的な風景や冬の樹氷と火口の噴煙など、火山と草原がつくり出す景観は雄大で、四季それぞれに人をひきつけます。昭和9年には、日本を代表する自然の風景として国立公園に指定され、年間1,600万人をこえる人が観光に訪れています。



野焼き

春
夏
秋
冬



緑の草原 (米塚)



草小積み (くさこづみ)



雪原

草原は、生きものたちの宝庫



さいそうち 採草地

草刈りをする草原では、
背の高い色とりどりの花が咲く。

何種類の生きものを見つけられるかな？

阿蘇の草原には、およそ 600 種類の植物が生えています。その中には、大昔に九州と大陸が陸続きだったことを示すヒゴタイやマツモトセンノウなど、日本であまり見られなくなった貴重な植物もあります。

また、草原を好んで暮らす鳥や昆虫も数多く見られます。

阿蘇の草原は生きものたちの宝庫と
なっているのです。

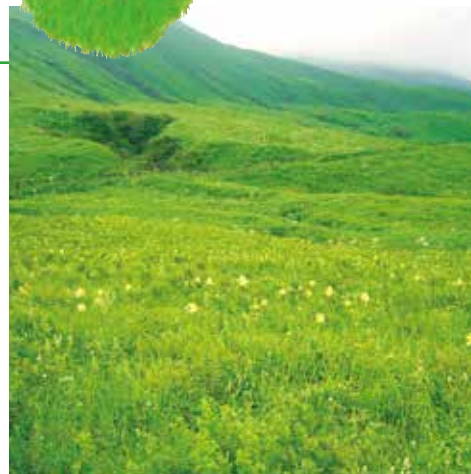
ほうぼくち 放牧地

放牧をするところでは、
背の低い植物や、牛のきれいな植物が多い。



しっち 湿地

草原のくぼ地にはよく小さな湿地ができていて、
水辺を好む植物が見られる。

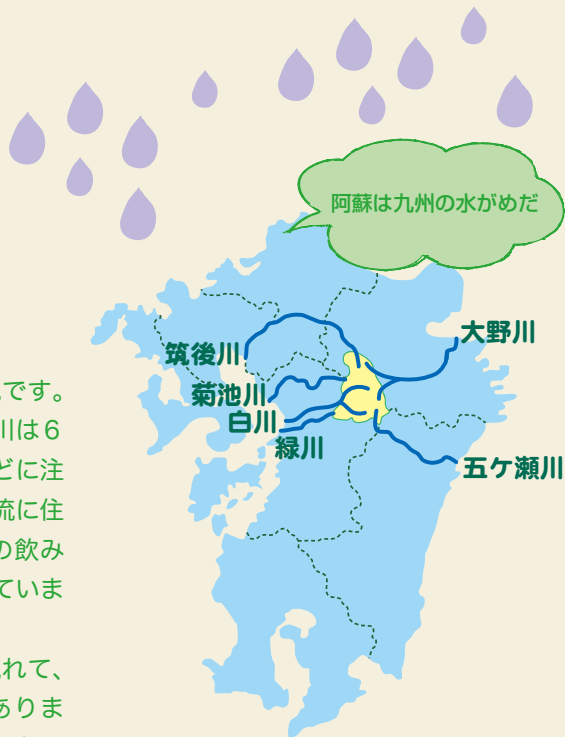


草原の生きもの



めぐ 草原の水の恵み

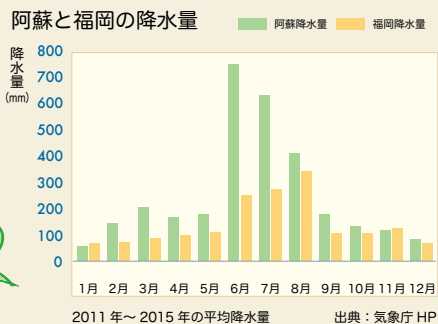
草原に降った雨は
どうなるのかな？



阿蘇は日本の中でも雨の多い地域です。阿蘇の外輪山周辺から始まる大きな川は6つもあり、雨は川となって有明海などに注ぎます。これらの川の水は、その下流に住む福岡を含む約500万人の人々の飲み水などに利用され、その生活を支えています。

けれども、降った雨水が一度に流れて、土砂くずれや洪水がおこる危険があります。また雨の少ない季節には水が足りなくなるかもしれません。それを調節しているのが草原や森林なのです。草原は地中に水をたくわえたり、地表の土砂が流れ出るのを防ぐ大切な役割を果たしています。

阿蘇に降る雨は
年間 2500 ミリ以上



カルデラの中は米どころ

外輪山からカルデラの中を見おろすと、きれいに並んだ一面の水田が見える。水の豊かな阿蘇は熊本県の米どころの一つなんだ。阿蘇のきれいな水で育てられた米はとってもおいしいよ。



城山展望所 (マップ参照) などからよく見えるよ。

あふれ出るわき水

地中にしみこんだ雨はゆっくりと地下を流れ、その一部はわき水となって再び地表に流れ出てきます。阿蘇地域にはわき水が多く、1500ヶ所以上もあると言われています。これらは、地域の人たちの飲み水や、農業用の水として大切に使われています。

日本の名水
白川水源、池山水源

1985年に環境庁(当時)が選定した「日本の名水百選」に、阿蘇のわき水が2ヶ所も選ばれているんだ。どちらもきれいな水がこんこんとわいていて、水の神様がまつられている。人々から大切にされてきた水だということがわかるね。



池山水源

樹齢200年の巨木に囲まれている。おいしい水を遠くからくみに来る人もいるんだよ。



白川水源

とてもすんだ水で、1分間に60トンもの水がわき出しているんだ。

阿蘇神社周辺の湧水群

阿蘇市一の宮町の仲町通商店街を中心に、小さいけれどたくさんのわき水があるんだよ。1時間くらいで歩いて全部まわれるよ。



欣命水 (きんめいすい)



竹沢の雫 (ちくたくのしずく)



金運の泉



金脈の泉

火の国阿蘇の温泉

阿蘇のカルデラ内から外輪山の周辺にかけて、数多くの温泉があるんだ。カルデラの中には内牧温泉、地獄温泉、垂玉温泉、栃木温泉など、外輪山には黒川温泉、杖立温泉などがあり、昔から湯治場として栄えた温泉もたくさんあるよ。それぞれが源泉を持っているから泉質の違う温泉が楽しめるんだ。温泉もまた火山と阿蘇の豊かな水が与えてくれる恵みの一つなんだ。



主な温泉地の1つ (垂玉温泉)

こんなにすごい草原はどうやってできたの？



人と草原がどのように関わっているのが観察してみよう。

多くの人々の心をひきつけ、多くの生きものたちの宝庫となっている阿蘇の草原。自然が千年にもわたる長い間、上手につきあってきた共生のしるしなのです。このすばらしい阿蘇の草原は、実は、人と

人と自然のかかわり① 牛や馬の放牧

阿蘇では現在、約7千頭の牛が放牧され、草原の草を食べています。草原にいる牛の多くは母牛と子牛です。よく見かける明るい茶色をした牛は「あか牛」と呼ばれ、阿蘇を代表する牛です。

牛たちは、4月から12月ごろまで草原で生活し、草原の草が枯れる冬の間は里にもどされます。しかし、最近では1年中草原で放牧する工夫もされていて、冬の間も阿蘇登山道路わきの草原などでも牛を見ることができます。



草原でのびのびと暮らす
おかあさん牛からは
元気な子牛が生まれるんだよ。



牛がたくさんいるなあ。
赤っぽい色の牛が多いけれど、
どういう牛なのかな？

人と自然のかかわり②

草刈り(採草)

冬は草原の草が枯れてしまうため、秋に大量の草を刈りとって保存し、冬の間は牛馬のエサにします。この秋の草刈りを干し草刈り（または刈り干し切り）と言い、9月から10月にかけて行います。栄養が豊富な若い草を刈り、2～3日かわかし、束ねて保存します。



干し草を積み上げて保存する草小積み。昔に比べて数は減ったけれど、今でも秋の草原で見られるよ。



よく見かける
白いかたまりの中身
は干し草だよ。

人が手を加えてできる自然も大切

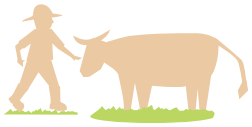
「自然」と聞いた時に、みんなはどんな所を思い浮かべるかな？山奥の巨木が立ち並ぶ森？それとも地平線まで続く湿原？もちろん、これらも自然だけれど、このような人の手が加えられていない自然に対して、日本には多くの二次的な自然があるんだ。薪や炭をとるための「里山（さとやま）」のように農業や生活と結びついて、人が手入れをしてきた自

然のことを「二次的自然」というんだ。阿蘇の草原は、この二次的自然の代表選手で、ここでは、草原にしか住むことのできない生きものたちが、人と共に生きてきたんだよ。その中には阿蘇にしかない植物もある。それらを守るためには、これからも人が手を加えながら自然と上手につきあっていかなければならないんだ。



草原の草はたい肥やあか牛のエサに利用されています。





輪地切りの長さは阿蘇全体で約530kmにもなるんだ。これは、なんと直線距離にして阿蘇から滋賀県のびわ湖までの距離だよ。

人と自然のかかわり③

野焼きと輪地切り

阿蘇では毎年3月になると草原に火をつけ、草原に残る枯草を焼いています。これを「野焼き」と言います。野焼きによって新しい草ができて、草刈り作業もしやすくなります。また、このことが草原に多くの生きものが暮らせる環境をつくっています。

野焼きをするために、周りの林や建物に火が燃え移らないよう草を帯状に刈り込みます。この作業を「輪地切り」と呼び、夏の終わりから秋にかけて行います。秋から冬にかけて草原の中や森との境に見られる長く続く黒いラインは、この「輪地」と呼ばれる防火帯です。急な斜面での草刈りは、危険がともなう大変な作業です。



輪地切りをしているところ



輪地焼きをしているところ



野焼きの後、草の芽が出るまでの草原は真っ黒だ。

草原が生んだ文化・技術

秋の草刈りのために草原で寝泊りするのための草どまり(草のテント)や野焼きで複雑な風や火の動きを読んで行う火入れの技術など、草原との関わりから生まれた文化や技術はいろいろある。

その一つとして、阿蘇では8月のお盆に、草原の野の花をつんできて祖先のお墓にそなえる風習があるんだ。昔は、花がたくさん咲く草原を「花野」と呼んでいた地域もあったくらいで、すぐに両手いっぱいの花をつむことができたんだ。今は、草原の環境が変わってきたために絶滅が心配され、採るのを禁止されている花もたくさんあって、見るだけで楽しめないといけない。豊かな「花野」を守るには人と自然が上手に付き合うことが大事なんだ。



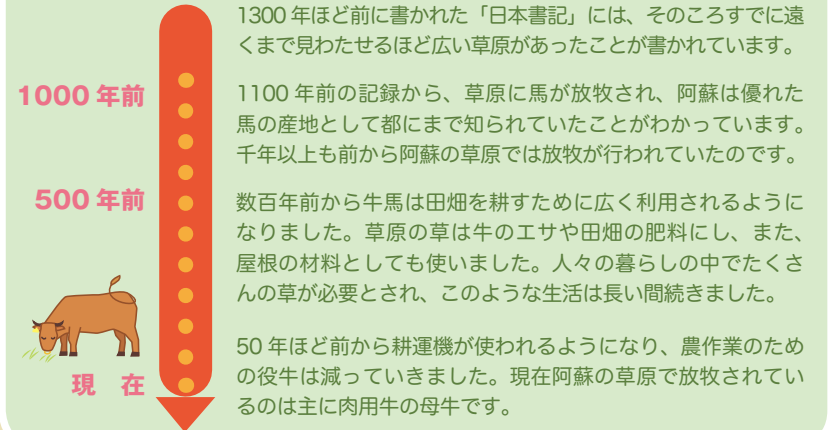
「草どまり」(くさどまり)と呼ばれる草のテント



お墓に供えていた盆花(ぼんぼな)

人と自然との共生の歴史

阿蘇の草原は、牛や馬の放牧や、そのエサとなる草を刈る場所として利用されてきました。このような草原の利用はいつごろから始まったのでしょうか？



阿蘇では千年もの長い間、人々の暮らしや産業と結びついて草原が利用されてきました。技術の進歩や生活の変化とともに、利用のしかたは少しずつ変わっていますが、放牧や採草、そして野焼きをくり返してきたことによって、今の草原があるのです。

牛から見た草原

牛たちにとって
草原はどんなところ？

草原の主人公
あか牛のくさ子

色は明るめのかっ色。性格
がおだやかで、寒さにも強
くて丈夫なのがとりえ。



くさ子の ある 1日の生活

早朝

活動開始。しっとりとした草で朝ごはん。時間をかけてしっかりと食べる。水辺におりて水を飲む。飲んだあとは、そのまま近くの木かげでひと休み。

正午

ふと気がつくともう昼。おなかがいっぱいなので、おいしい草を求めて移動。歩いては食べ、食べては歩く。

夕方

おなかもいっぱいになり、草原の景色を楽しみながら、ゆっくりと散歩。のどがかわいたので水辺へ。水を飲んだら眠くなったのでちょっとお昼寝。

夜

昼寝からさめたら、またおなかがいっぱい。またまた食べ、食べては歩く。そろそろまわりも暗くなってきたので、今日のね場所へ。夕方食べた草をおなかの中でもう一度味わいながら、いつしか夢の中へ……。

背中に書かれちよる番号は、私たちがケガばしとらんか見回りにこらす人が遠くからでも見分けられるごつするためのもんばい。ばってん飼い主がつけちよる名前前で呼ばれるときが一番うれし。



ちよつと変わったイヤリング (耳標)

私たちが、生まれるとすぐ、世界で一つしかなか番号ば書いた黄色いイヤリングが付けられるとたい。私たちがどこで生まれ、どぎゃんふうに育ったか、いつでんわかるごつするため、BSEちゅう病気が出てきてから、ずっと行われととたい。私たちの健康の印と思つとるばってん、三つもつけるとちよつとハデかねえ。

阿蘇で生まれたあか牛

阿蘇に昔からいる牛は、じょうぶで性質がおとなしく、よく働くといった特長があり、田畑で使うのに向いていましたが、体が小さく、成長に時間がかかるという欠点もありました。明治時代にスイスからシンメンタールという種類の牛をつれてきてかけあわせ、品種改良をくり返し、誕生したのが現在のあか牛です。

好きなもの、きれいなもの

牛にだって好ききらいはあるたい。やわらか草が好きばってん、成長してかたくなった草はきれいとたい。苦いワラビやクララ、トゲのあるツクシアザミ、毒のあるオキナグサやスズランなどは食べたくなかけん上手によくて食べると。クララは苦かばってん、オオルリシジミというチョウの大好物らしかけん、「タデ食う虫も好きずき」ばい。放牧している草原にきれいな花を咲かせる植物は、こうして牛が食べ残したものが多かとよ。

私たちが仲間とグループばつくって行動することが多か。アネゴのようなリーダーだつておるとばい。



くさ子のなだち

黒牛

最近、よく見かけるごつなつたよね。市場ではくさ子たちより人気が高いとばってん、気にしとらんよ。



ホルスタイン

乳牛は、阿蘇では少数派。いっしょに行動することがなかけん、どぎゃん性格かは、わからんばい。



牛道

トラクターが入られんごたる急斜面でも平気ばい。水平に移動ばしながら登り降りするとたい。そぎゃんやって私たちが草ば食べ歩いてできる跡は「牛道」と呼ばれるとたい。

1日に3kmは軽く歩けるばい。



ともし (土塁)

牧野の境界には、私たちがよその牧野に入りこまんごつ、土ば積み上げた土手がつくれとるたい。昔のことだけん、もちろん私たちが生まれてなかばってん、今も残つとるばい。その長さは全部で500kmにもなるとたい。



草原の危機ってどういうこと？



採草や野焼きをしなくなった草原はどうなるの？

阿蘇の草原は、人々が放牧や採草、野焼きを行いながら、地域の自然に合ったかたちで利用することで守られてきました。しかし、草を肥料にするかわりに化学肥料が使われることが多くなったり、牛を飼う人が減ったりしたことで、人々の生活に、草があまり利用されなくなりました。たく

さんの草が必要だったころには、残さずに草を刈り取って利用されていた草原も、草刈りや野焼きをしなかったところが増えて、草原の面積は昔に比べて減っています。

阿蘇の草原が一面に緑になる春から夏の時期に、いつまでたっても茶色い草原が目につくことがあります。これが手入れをされなくなった草原の姿です。このような草原が増えると、枯れ草がたまって山火事がおこりやすくなったり、雨で土が流されやすくなったりします。また、千年という時間のなかで育てられた草原の文化も失われます。そして、世界中で阿蘇にしかない貴重な植物たちも育つ場所をなくし、二度と見るができなくなってしまうかもしれません。



野焼きをしなかった草原は、春になっても茶色いままなんだ。

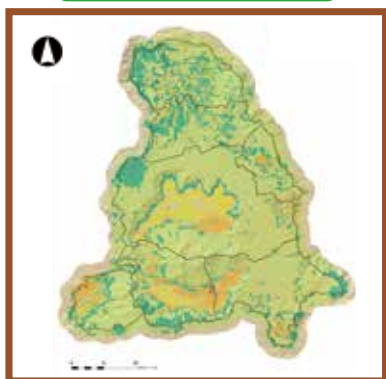


マツモトセンノウ (ツクシマツモト)

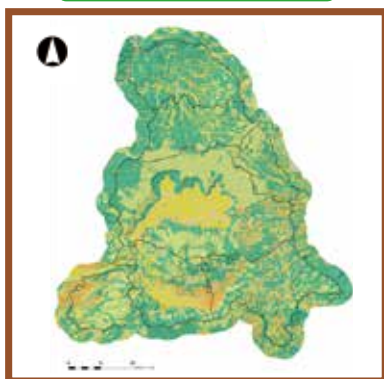


ヤツシロソウ

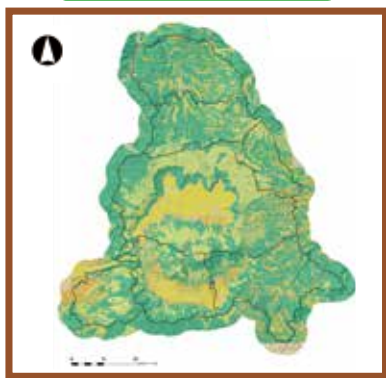
明治期 (1900年頃)



昭和期 (1979年)



平成期 (2007年)



凡例
土地利用分類
森林
牧野・野草地・裸地
農地(畑)
農地(水田)
未分類(宅地・水田等)

昔は草原(黄緑色)が多かったけど、だんだん森林(濃い緑色)が増えて、草原が減ってきているね。

植生	1900年頃	1979年	2007年
草原(牧野・草地・裸地)	58%	30%	23%
森林	21%	49%	56%
農地(畑・畑)	17%	19%	17%

上の表は、阿蘇郡市7市町村の土地利用変遷図の図上計測による概算面積計1081km²に対する割合。
各時期の土地利用分類は、国土院による5万分の1旧版地形図(1900年頃測図)の判読と、環境省1/5万現存植生図(1979年)、同1/2.5万現存植生図(2007年)を参照。資料提供：阿蘇世界文化遺産推進室

草原の草花や生きものを守る野焼きや草刈り

阿蘇の草原は、何もしないで放っておくとヤブや林に変わっていく。だから、野焼きをすることでか木が大きくなるのをくい止め、この広い草原を守ってきたんだ。また、背の高い草が多い草原では、ススキなどの下にかくれた草に光があたらなくなってしまふけれど、草刈りをするのでよく陽があたるようになって、いろいろな植物が育つことができ、きれいな花がたくさん咲くんだ。

ここには草原でしか生きていくことのできない植物や動物もたくさんいて、中には阿蘇でしか見られないものもある。野焼きや草刈りは牛や馬によいエサを与えるために行ってきたことだけれど、草原の生きものを守ることもつながっているんだ。



ハナシノブ

草原を守るために



ひとりひとりどんなことができるか考えてみましょう。

これまで千年もの間、阿蘇の人々が自然と上手に付き合うことで守られてきた阿蘇の草原。この日本一の広さの草原は、多くの人々に自然の恵みを与え、多くの生きものが息づいています。この豊かな草原を未来に引きついでいくためには、時代に合わ

せた新しい方法を考えていかなければなりません。

阿蘇では、阿蘇に住む人たちだけでなく、他の地域の人たちもいっしょになって草原を守る取り組みが進められています。

草原を守るさまざまなとりくみ

1 牛を増やす

健康で安全な牛肉を安く生産できるよう、冬の間も草原で放牧をする「周年放牧」や、他の地域の牛を預かって放牧する「預託放牧」などの取り組みが進められています。

阿蘇に牛が増えることで草原の利用が増えます。



2 草原に親しむ

阿蘇の草原や文化に深くふれる、地元の人との交流をとりいれた旅行や、農家民泊（ファームステイ）型の修学旅行などが行われています。また、地域と草原の関わりを知ってもらうために、かつて牛と人が草原と里の間を行き来した「草の道」を歩く会なども行われています。



3 都市に住む人たちも協力

阿蘇の水と緑を国民みんなの財産として守っていくために、県内や福岡・関西など遠方の人たちも協力しています。例えば、輪地切りや野焼き作業の人手不足を補うためのボランティア活動や、草原を守る取り組みを支援するための募金への協力などが行われています。



野焼き支援ボランティア問合せ：公益財団法人阿蘇グリーンストック

TEL 0967-32-3500

阿蘇草原再生募金問合せ：阿蘇草原再生募金事務局（阿蘇グリーンストック内）

TEL 0967-32-3500

こんなことも阿蘇の草原を守ることになるんだよ

●阿蘇のことを知って、伝えよう
阿蘇の草原を深く知ろう。知れば知るほどいろんな阿蘇が見えてくる。そして、君が感じた草原のすばらしさや守ることの大切さを親や友だちに伝えよう。

草泊まりの作り方を習ったり、草原にはおどろくことがいっぱい！



阿蘇の草原のことがわかるホームページ
<http://www.aso-sougen.com>

●あか牛を食べよう
草原を守るおいしい方法もある。草原の草をもくもくと食べるあか牛。このあか牛の肉がたくさん消費されると、阿蘇の草原が守られることになるんだ。牛肉を100グラム食べると畳4畳半の広さの草原が守られるといわれているよ。



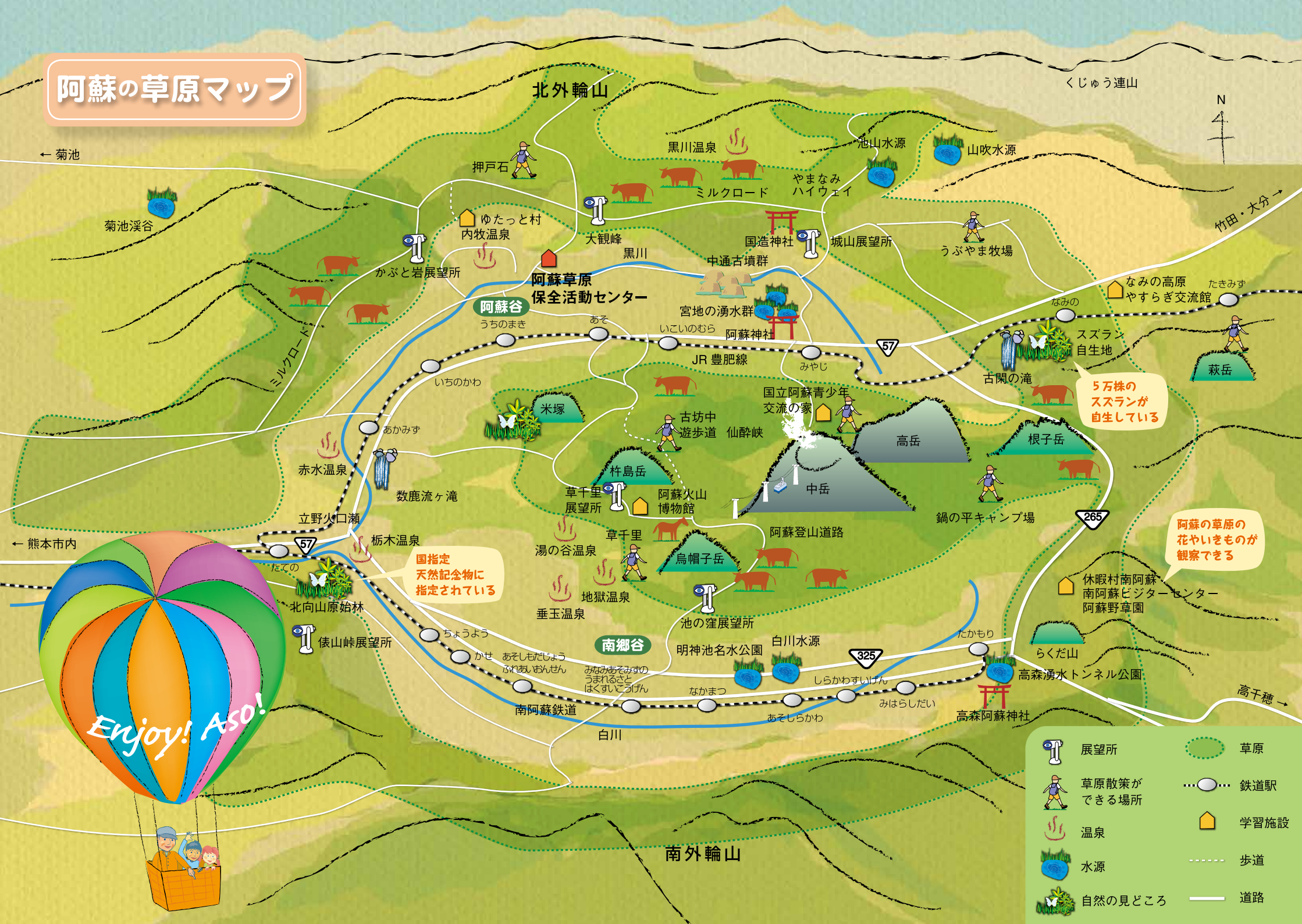
牛のおいたちを調べてみよう
スーパーなどの肉の売り場に10ケタの数字が書かれているのを見たことがあるかな。この数字から、牛のおいたちを知ることができるんだ。阿蘇の草原育ちかもしれないよ。
牛のおいたちがわかるホームページ
<https://www.id.nlbc.go.jp/top.html>

?

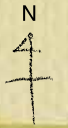
みんなの住んでいる地域はどうか？

みんなの住んでいる地域でも、周りの自然は変化しています。まずは、興味をもってその変化を観察してみてください。そして、みんなが大切に思う自然とはどのようなものか、残したい自然は何か、そのために自分ができることは何か考えてみましょう。

阿蘇の草原マップ



くじゅう連山



← 菊池

竹田・大分 →

← 熊本市内

高千穂 →



国指定
天然記念物に
指定されている

5万株の
スズランが
自生している

阿蘇の草原の
花やいそものが
観察できる

- | | | | |
|--|----------------|--|------|
| | 展望所 | | 草原 |
| | 草原散策が
できる場所 | | 鉄道駅 |
| | 温泉 | | 学習施設 |
| | 水源 | | 歩道 |
| | 自然の見どころ | | 道路 |

行ってみよう！



草原を歩く

●草千里

えぼしだけ きしまだけ
鳥帽子岳と杵島岳の間に広がる草原。放牧の期間中は牛や馬を近くで見ることができ。 (マップ参照)

●国立阿蘇青少年交流の家

高岳のすそ野の草原の中にある体験学習施設。草原の中を歩くクロスカントリーのコースがあり、春から秋にかけてたくさんの野の花が咲く。(マップ参照)

●登山道から古坊中

ふるぼうちゆう
阿蘇登山道路から阿蘇山上に向かう遊歩道がある。片道約2時間かかるが、いろいろなタイプの草原が見られる。(マップ参照)

●鍋の平キャンプ場

なべ
根子岳のふもと、鍋の平高原にある自然の草地のキャンプ場。周囲は広大な草原で、放牧している牛も見られる。(マップ参照)



阿蘇五岳を眺める

カルデラの中央部には主だった5つの山がそびえ、これらを阿蘇五岳という。

たかだけ
●高岳：5つの中で一番高く、1592メートル。「ヒゴノクニ」と覚えよう。

なかだけ
●中岳：今も活発に煙をあげている。火口を近くから見る事ができる。でも火山の活動ぐあいによっては立ち入りが禁止されることもある。

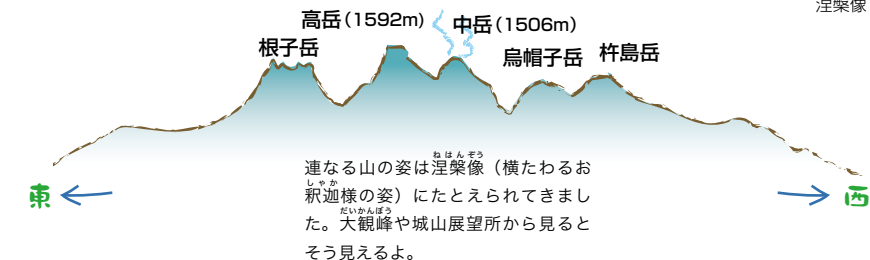
えぼしだけ
●鳥帽子岳：草千里の南にそびえる山で、山頂からすそ野にかけて何本もの谷が刻まれている。

きしまだけ
●杵島岳：西側にあるなだらかな形の山。付近一帯は背の低い草原になっている。

ねこだけ
●根子岳：一番東にあり、山頂がギザギザの山。



涅槃像 (ねはんぞう)



草原に入る時の注意！

草原は、地元の農家の人が牛や馬を飼育している大切な場所です。次のことは必ず守ってください。

- 草すべりなどの遊びはしない
- ゴミは持ち帰る
- ペットを連れて入らない

神社を歩く

●阿蘇神社

神話では大昔、湖だったカルデラの中に人が住めるようになったのは、神様が外輪山をけやぶって中の水を流し出したからとされている。名前は健甞龍命(タケイワタツノミコト)。阿蘇をつくったこの神様がまつられているよ。屋根が二段になった立派な門が日本三大楼門の一つになっている。(マップ参照)

●国造神社

くくぞう
健甞龍命の子どもで、阿蘇の国をきりひらいた国造明神がまつられている。境内には樹齢2千年とも言われた大杉の幹が保存されている。(マップ参照)

●大観峰

だいかんぼう
北外輪山の一番高いところにあつて、カルデラの地形がよくわかる。この辺りは広い草原が続き、阿蘇五岳の涅槃像が見えるよ。(マップ参照)

●城山展望所

しろやま
やまなみハイウェイの入口。一面に広がる阿蘇谷の田畑が見渡せるよ。(マップ参照)

●俵山峠展望所

たわらやま
南郷谷の田園風景と阿蘇五岳が見渡せる。遠くには有明海や天気がいいと雲仙まで見えるよ。(マップ参照)

●かぶと岩展望所

阿蘇谷、阿蘇五岳とともに米塚が見える。(マップ参照)

●草千里展望所

草千里と噴煙をあげる中岳が目。北に外輪山、西に遠く熊本平野が見える。(マップ参照)

●白川水源

南阿蘇ゆう水群の代表的な水源で、毎分60トンの水がわく。(P8～P9参照)

●池山水源

毎分30トンの水がわく。この水は玉来川となって大野川に合流して、別府湾に流れる (P8～P9参照)。

●阿蘇草原保全活動センター 草原学習館 草原情報館

阿蘇の草原を知り、学ぶことができる場であり、草原をめぐる様々な活動の拠点として利用することができる。(マップ参照)

●南阿蘇ビジターセンター・阿蘇野草園

阿蘇の自然について、草原・植物・火山などいろいろな角度からわかりやすく展示・説明している。ビジターセンターの隣には、たくさんの阿蘇の植物が見られる野草園があり、草原では見つけるのが難しい植物も見られる。(マップ参照)

北外輪山の上を走るミルクロードからやまなみハイウェイにかけてと、阿蘇山上へ向かう阿蘇登山道路からは、果てしなく広がる緑の草原と、あちらこちらに放牧されたあか牛が見える。

展望所に上る

わき水を訪ねる

自然を学ぶ

車から草原の景色を楽しむ